



郷小だより

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～
 子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。

『令和3年度も、もうすぐ折り返しです』

校長 高橋 励

10月8日(金)は、令和3年度の前期の終業式。土・日を含んだ4日間のお休みをはさんで、13日(水)から後期が始まります。この折り返しの時期に、学校での半年間の学習状況を「あゆみ」としてお届けすることになります。

学校教育では、学習指導要領に基づいて、全てのお子さんが「〇」を実現することを目標にして取り組んでいます。「△」の状況にあるお子さんが「〇」の状況に向かうための支援については、学校とともに、ご家庭での取組も期待されることです。



少し前、9月の中旬の話になります。朝、正門からちょっと回り道をして、外から1・2年生の教室をのぞきに行ったら、ちょっと目をひくものがありました。おうちの方に運んでもらったアサガオ。あるものはタネ

ネになっているのに、ほかのものではまだ花が開いている。同じアサガオでも、実を結ぶタイミングはそれぞれちがうのですね。

担任をはじめとする本校の先生方は日々、お子さんの学校での学びを支援しながら、その成長を見守っています。その成長のようすを3つの「観点」から見取り、お知らせするものが「あゆみ」に記載されている「学習評価」です。◎・○・△で表記していますが、今回の「あゆみ」では、各学年1年間かけて取り組む学習の実現状況が、半年を経た時点でどのようなものかを、次のように整理してあらわしたものです。

- ◎…「十分満足できる状況」と判断されるもの
- …「おおむね満足できる状況」と判断されるもの
- △…「努力を要する状況」と判断されるもの

「児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、ひとりひとりの一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。(後略)」「小学校学習指導要領(平成29年告示)前文より引用

「あゆみ」でお知らせする「学習評価」は、ある決まった時点での「学習状況」についてのものです。一人ひとりのお子さんが成長していくスピードは、同じではありません。大事なことは、本人が成長に向かおうとするときに、家庭も含めた周りの大人が、どのように関わろうとするかということだと思えます。

実を結ぶまでにかかる時間は一人ひとり異なると考えたほうが自然です。この半年で、どのようなことができるようになったか、うまくできていないこととどう向き合ってきたか、そして、これからどう取り組んでいくか。そんな未来につながることをお子さんとお話するためのきっかけとして、「あゆみ」を使っていただければうれしく思います。

